

LPガスCP情報(2014年10月積み)

1. 10月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン 735^{ドル} (前月比 -10^{ドル})

ブタン 765^{ドル} (前月比 -20^{ドル})

① LPガススポット市況

LPガス市場をみると、供給が潤沢なのに対し消費国の在庫が高いためマーケットは需給緩和感が強く、原油市況、ナフサ等石油製品市況も急落しLPガススポット市況は軟化した。CP先物は第2~3週に強含む場面もあったが、第4週はプロパンが需給緩和でブタンはナフサ安で急落した。なお、期先は10~12月限までコンタンゴ(期先高)、1月以降はバックワーデーション(期先安)。極東CFRは月間で軟化、直近でプロパン809^{ドル}、ブタン849^{ドル}。フレート市況は船舶需給逼迫感がやや緩和し軟化したものの100^{ドル}超の高値で推移した。ナフサは原油市況の急落で第4週は850^{ドル}まで下げており、月間平均で876^{ドル}と前月比30^{ドル}の下落。

原油(A・L)熱量等価換算では前月に比べプロパン3.8ポイント、ブタン2.8ポイントの上昇、前年同月比ではプロパン1.4、ブタン1.8ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	106	110	108	102	106
CP先物指標:P	748	750	758	736	748
CP先物指標:B	798	785	788	776	787

② 原油市況等

原油市況をみると、9月WTIは92^{ドル}台後半で始まり上旬に一時95^{ドル}台まで上げたが10日には91^{ドル}台に下げ、月間を通してこのレンジ内に収まった。ファンダメンタルズの弱さを地政学的リスクが下支えする形。イスラム国に対するリビア領内での空爆など中東情勢が混迷する中、欧州、中国等の景気減速懸念とリビア原油輸出増からブレント、ドバイ原油が急落した。一方、米原油生産量は1986年3月以来の880万bl/d超えの高水準が続いているが、米原油在庫は製油所稼働率の上昇で減少しWTIを下支え。原油先物市場は投機資金がドル・株式にシフトされ、総取組高は昨年1月以来の150万枚割れ、23日時点の大口投機玉の買い越しは29.6万枚と過去最高を更新した6月から35%の減少、手仕舞い売りが進んだ。

○9月積みアラビアンライト(9月1~29日)は98.355^{ドル}(前月比-5.636^{ドル})

熱量等価AL100% プロパン806.41^{ドル/トン} ブタン795.35^{ドル/トン}

AL比 プロパン 91.14% ブタン 96.18%

2. 2014年10~11月LPガス仕切(CPコスト変動分)への影響

適用期間	TTS	P:円建CP	B:円建CP	P前月比	B前月比
16~15日①	109.60	80,556	83,844	1,900	1,000
26~25日②	107.18	79,300	83,100	300	1,000
1~30日③	108.07	80,000	83,800	700	1,400

*TTS平均は①が9月16日~9月30日まで、②は8月26日~9月25日

③は9月1~30日、①は11月仕切への影響、②~③は10月仕切適用。②、③は前月・当月CP50%案分。詳細は(LPガス価格推移表等を参照)

なお、各社の仕切は、フレート分、バンカーサーチャージ等の改定もなされるため、CPコスト変動分と実際の仕切と異なるケースがあります。更に、税制、制度変更や為替レートの急変動等もあり、改定幅についてはご注意ください。